

国際医療福祉専門学校七尾校

平成 26 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録（要約）

1. 日 時：平成 26 年 6 月 1 日（日）13:30～16:00
2. 場 所：2 階 会議室
3. 参加者：武元文平（元七尾市長）
尾田光生（社会福祉法人七尾市社会福祉協議会・会長）
椿原達也（医療法人社団持木会柳田温泉病院、
理学卒業生、同窓会長）
前田和栄（七尾市役所職員、作業保護者、後援会長）
加藤孝之（富来病院、作業卒業生、同窓会副会長）
岩坂晃太（奥能登広域圏事務組合消防本部 珠洲消防署、
救命卒業生、同窓会理事）
法楽未来（公立つるぎ病院、介護卒業生）
（オブザーバー）
武村啓住（国際医療福祉専門学校七尾校・副校長）
近藤陽久（国際医療福祉専門学校七尾校・理学療法学科学科長）
平賀昭信（国際医療福祉専門学校七尾校・作業療法学科学科長）
早田洋二郎（国際医療福祉専門学校七尾校・救急救命学科学科長）
宮下榮子（国際医療福祉専門学校七尾校・介護福祉学科学科長）
森下直美（国際医療福祉専門学校七尾校・事務長）
西田 勉（国際医療福祉専門学校七尾校・事務職員）
4. 欠席者：藪越康夫（公立能登総合病院、理学卒業生）
5. 議事内容
 - 1) 開会の挨拶（副校長）
 - 2) 自己紹介
 - 3) 学校関係者評価委員会の開催趣旨説明（副校長）

職業実践専門課程とは、専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としている。

本委員会は「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規程（平成 25 年文部科学大臣告示第 133 号）」が平成 25 年 8 月 30 日に公布・施行されたことにより開催するものであり、学校側で実施した自己点検評価結果をもとに学校評価をしていただくことになっている。
 - 4) 資料（自己点検・評価書）説明と質疑応答
 - ① 教育理念・目標について
 - a. 医療は、病院から地域へ、福祉も施設から在宅への動きがある。医療・福祉での在宅への流れがある中で、専門職の在宅での活躍をどう考えるか。
 - b. 同窓会でも、地域包括ケアシステムの中で理学療法士、作業療法士が訪問等で活躍できるように研修会を開催していきたい。
 - ② 学校運営について

質問意見なし

③ 教育活動について

a. 在学中に在宅リハに関する授業が少なかったように思う。介護保険制度（施設の種類や福祉用具のリース等）に関する教育を入れてほしい。

（回答）理学療法学科は、他職種連携論や地域理学療法等の科目で介護保険制度の授業を取り入れる予定である。作業療法学科でも在宅リハに関する授業を増やす予定である。

④ 教育成果について

a. 同窓会は、名簿作りなどで卒業生の社会的活動及び評価を把握したい。

b. 同窓生同士の連携や在校生との情報交換が、今後の問題解決につながる。

c. 学生時代から上級生・下級生との交流があると卒業後も関係が作りやすい。卒業生が講義できるような場を作ってくれれば協力する。

（回答）25年度は、2・3年生に対して同窓会による講義をしてもらった。今後も同窓会の協力を得て企画していきたい。

d. 理学・作業療法学科は、国家試験に向けて基礎医学に関する教育が重要と考える。

（回答）1年次から基礎医学系の小テストを実施し学力の向上を図っている。

e. 救急救命学科の授業は教科書中心の教育で実践的な内容が少なかったのもう少し教育のレベルを上げた方がいいと思う。公務員試験対策は、一年生の時から行わないと間に合わないと思う。

（回答）現在は1年生から、国家試験対策と公務員対策を行っている。シミュレーションにおいても、昨年度から消防の方に非常勤講師をお願いし、PCEC手技中心に指導していただいている。今年度は、実技評価も消防の方をお願いしている。救命プロトコルは各県によって違いがあるが、石川県MC（メディカルコントロール）のプロトコルは全国ではレベルが高いと聞くので、石川県のプロトコルで教育していきたい。早期に対応するため、学科として「3本の矢」を掲げ対応している。

f. この学校の卒業生による学校評価が良くなるとよい。教育成果が一番重要である。

⑤ 学生支援について

a. 退学予防策として部活動を必修としてはどうか。

（補足）今年度より、野球部を作り専各連野球大会にも出場する予定です。七尾校の知名度を上げたい。

⑥ 教育環境について（各学科長）

a. 在学中グループ学習で遅くまで残ることがあったが、七尾校は閉校時間が19:30となっているのもう少し遅くまで開校する必要があると考える。

b. 空き教室と使う教室を把握して学生がわかるようにしてほしい。

（回答）開校時間、空き教室の把握など工夫します。

（補足説明）救急救命学科は、早急に資器材整備に力を入れ、学生の手技の向上につなげたい。

⑦ 学生の受け入れ募集について

a. 若者人口の減少、地域性、入学学生の減少、退学率等の問題があるが、当校の立地条件は努力のしようがないのではないか。

b. 生活の部分では、七尾の魅力を出していくことが必要である。ヨットや海の魅

力をPRしてはどうか。

c. 学校のPRのため、マスコミを利用してはどうか。

(回答) 救急救命学科は、北陸に1校しかないので、学生が来ないのはPR不足である。今後検証し、学生募集につなげたい。

⑧ 財務について

質問・意見なし

⑨ 法令等の遵守について

質問・意見なし

⑩ 社会貢献・地域貢献について

a. 生活支援サポーター養成講座については、当校に依頼している。また、七尾市民健康福祉祭りでは、学生さんには協力をいただくことで実施されている。若い学生の協力があることで、祭りが盛り上がっていることはまちがいないので感謝している。

4. 閉会の挨拶